

いちのみやの芸術文化

■特集「三岸節子と故郷・小信中島」

■「エッセイ」私のお絵描き人生

洋画部門／一宮美術作家協会／洋画部

寺西 洋二

■「活動」ベートーヴェンの贈り物「第九」

声楽・合唱部門／一宮第九をうたう会

高井 光信

■「一宮市芸術祭」のご案内

■これからの催し

■文化講演会「木村大作」



第3回春陽会展に初入選した
《自画像》と三岸節子(1925年)

2018.9

第46号

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

三岸節子と故郷・小信中島

節子と生家

女性洋画家・三岸節子（一九〇五〜一九九九）は、中島郡小信中島村（現・一宮市）に父吉田永三郎、母きくの第八子、四女として生まれました。

吉田家は、江戸時代には起宿の披本陣ひほんじんを務めた家に列つらなり、幕末には南画家の吉田蘇川そせん・稼雲かうん兄弟らを輩出して

います。節子が生きた時代は、美濃街道の宿場として栄えた町が織物の町として花開く時期に重なります。大地主であった吉田家も毛織物工場



▲吉田家工場外観

を經營し、敷地内には赤レンガ造りの工場が建っていました。

洋画家を目指す

節子は十二歳の時に名古屋の淑徳高等女学校（現・愛知淑徳高等学校）の寄宿舎に入ります。そこで日本画を学ぶ戸塚かずと出会い、上村松園、鏑木清方、池田蕉園らの美人画を真似て絵を描き始めます。実家でも日本画を収集しており、節子の父や祖父も深い見識があったそうです。その裕福であった実家が一九二〇（大正九）年の戦後恐慌により倒産に陥ります。この時節子は、「一家の苦しみを何者かになってとりかえよう」と、洋画家になることを決意しました。しかし、家族は日本画ならば許すが洋画だけは許さないと、頑なに反

対しました。

「いつも久しぶりで家に帰ると、野に出て大声で叫びたい衝動に駆られる。このやうなわたくしには油絵のあの粗さはうつつてつけども思つた。そして油絵の中に何より生命の自由を少女ながらも読みとつてゐたのである（注①）」

と節子は言います。節子が洋画を選んだ理由には、生活環境に対する反逆があったのかもしれませんが、反対する家族を押し切る形で十六歳の時、節子は単身上京し、洋画家・岡田三郎助の元で油絵を習い始めました。



▲ヴェロンでの三岸節子（1985年）

作品に見る赤の色



▶《花》一九一九(平成元年) ©MIGISHI

一九二四(大正十三)年には、女子美術学校(現女子美術大学)在学中に出会った北海道出身の洋画家・三岸好太郎と結婚し、翌年デビュー作《自画像》が春陽会展で女性初の入選を果たします。初期の頃は色彩豊かな静物画や室内画、花を描き、一九五四(昭和二十九)年の渡欧後は異国の風景を描くようになります。節子の作品では特に赤色が印象的です。節子は、作品を部屋に飾った時に明るくなるこの色をとて好み、多用しました。《自画像》の着物にも、その赤は見られます。



▶《自画像》一九二五(大正十四)年 ©MIGISHI

「私が生まれた国は尾張の国なんです。日本の国で赤い色を出せる人は、北の方の人にはいないの。これは日本の中部から九州にかけて。京都からたくさん色彩画家が出てくるのも、長い伝統の中で洗練された所に育った人に初めて出来ることです。赤が好きなのは、やっぱり血ですね。(注1)」

生まれた土地の影響でこの特徴的な色彩が生まれたことがわかります。女性洋画家初の文化功労者に



▲《小さな町(アンダルシア)》1987(昭和62)年 ©MIGISHI

なるなど数々の功績が認められ、一九九八(平成十)年には三岸節子記念美術館が開館します。美術館はのこぎり形の屋根を持つ毛織物工場を模した外観で、かつて家族が所有した土蔵も展示室となり残っています。今年、美術館は開館二十周年を迎えます。この土地が生んだ洋画家・三岸節子の作品を、ぜひ今一度ご覧いただければと思います。

(一宮市三岸節子記念美術館 学芸員 大村菜生)

注1 本陣・脇本陣が有事の際に、これらに替わるため備えられた本陣のこと。三岸節子記念美術館の近くには、現在も起宿披本陣跡が残る。

注2 三岸節子『黄色い手帖』一九八三年、求龍堂、83頁。

注3 林寛子『三岸節子 修羅の花』一九八九年、講談社、22頁。

◆参考文献

- 三岸節子『花より花らしく』一九七七年、求龍堂
- 三岸節子『黄色い手帖』一九八三年、求龍堂
- 林寛子『三岸節子 修羅の花』一九八九年、講談社
- 三岸節子『美神の翼』一九九一年、求龍堂
- 一宮市三岸節子記念美術館編・発行『三岸節子収蔵作品集』二〇一七年

私のお絵描き人生

洋画部門 一宮美術作家協会／洋画部 寺西 洋二

私の小学校時代は戦争の真っ只中であつた。そんな中でも絵だけは好きな子供であつた。

今思えば、私のお絵描き人生は誠に情けない、不遜な出発だつたと思われてならない。

高校三年生の三月、隣家からの出火で父親の織物工場と居宅が全焼した。そのため、受験を諦めて機屋の後継ぎとなる事になった。その後二十年程の間は、機屋のおやじとして働き、仕事が終われば麻雀、という生活を送つていた。そんな生活の中で、同級ぐらゐの年の二人が麻雀明けに急逝した。私自身も徹夜明けに風呂で失神してしまつた。その時は家内に助けられたが、これは危いと思ひ、麻雀を魚釣りに変更した。それから五年程たつた頃、織物が不況になり、就職することになった。そこで多少時間に余裕ができたため、独りで出来る遊びはないかと考えた。姉から貰つた油絵

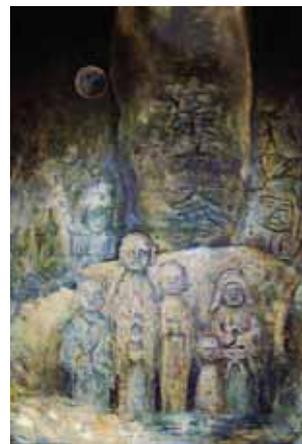
の道具を思い出し、絵を描いてみた。ちよつとこの頃、木曾川町で絵画クラブが発足し、入会して私のお絵描きが始まつた。



白杵の石仏

一九七八年には、県文連美術展が一宮市で開催され、恐れもせずに応募した。その時、入選したのが五十号の「白杵の石仏」だつた。それから私の石仏行脚が始まつた。一九八七年には県文連美術展で「修那羅太劫」が愛知県教育委員

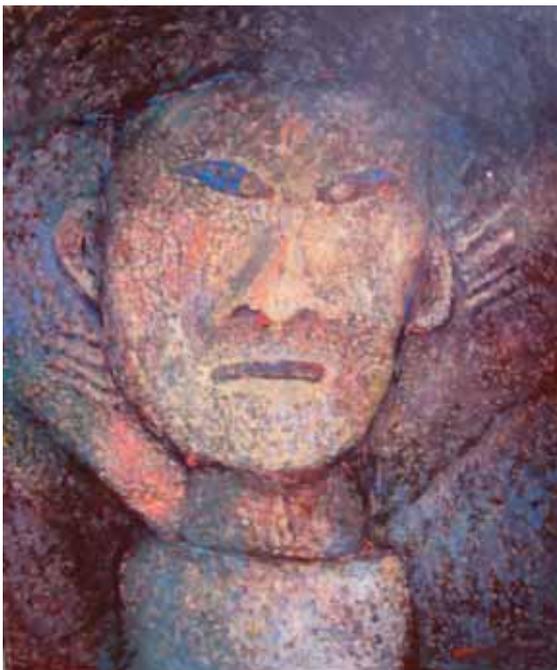
会賞を受賞した。この受賞でようやくその気になつた私は、岐阜NHKの絵画教室等でデッサン・水彩を勉強し始めた。



修那羅太劫

一宮・木曾川・尾西の合併も、私のお絵描き人生に大きな影響を与えた出来事である。私は木曾川町で文化協会に携わつていた関係で、一宮市の先生方とも親交を深めることができていた。合併後には、美大も出て

おらず美術会の会員でもない私が一宮市芸術文化協会の役員に選ばれた。その際に諸先輩の先生方に、色々勉強させて頂いた事は忘れられない。また、第2回新総合美術展には一〇〇号の



つらがまえ

「つらがまえ」が案内状とポスターに採用され、心から嬉しかった事は今でも忘れられない出来事である。これが私の幸運だつた事だと思つている。

今では、協会でも年寄りの部になつた。今後の作品が思いやられる今日この頃である。あと少しの間、少なくとも米寿までは「絵は下手でよい。作者の心が画に現われていれば良い。」と心に念じながら絵を描き、楽しんで、唄でも歌つて生きていければ思い残すことはないと思つています。

私のお絵描き人生を、感謝の毎日です。

ベートーヴェンの贈り物「第九」

声楽・合唱部門／一宮第九をうたう会 高井 光信

一宮第九をうたう会は、今年創立三十周年を迎えます。一九八八年十月二十三日に(社)一宮青年会議所(当時則竹伸也理事長)が指揮者山本直純を招聘してベートーヴェンの「第九」演奏会を開催、その参加したメンバーにより同年十二月に「一宮第九をうたう会」を発足させ今日に至っています。



第19回一宮市民音楽会

楽聖ベートーヴェンの贈り物「第九」は世界中で愛され続け人類最高の芸術作品といえます。その誕生はベートーヴェンの不屈の精神の強さに裏打ちされていることを忘れてはなりません。ベートーヴェンは耳が聞こえなくなつた

絶望から、「ハイリゲンシュタットの遺書」をしたためました。しかし自殺を図った状況から這い上がって人類のために力強い数々の名曲を残してくれました。不屈の意志で立ち直った後の第三番「英雄」、第五番「運命」、第六番「田園」などそして集大成のこの第九番「合唱付」を人類の不滅の財産として残してくれたのです。

歓喜の歌の歌詞は、フランス革命当時に流行したシラーの詩「歓喜に寄す」から引用されたものです。当時教会の権威が強く検閲もあつたのですが、人類へのメッセージとしてどうしても言葉よる表現が必要だと感じベートーヴェンは最後の交響曲に合唱を入れたのです。

アーッレ、メンシエン、ヴェールデン、ブリューデル
 alle Menschen werden Brüder
 (すべての人々は皆兄弟となる)
 と謳い、平和、友情、人類愛と無情の喜びを与えてくれます。

「第九」演奏は一般には百五十



創立20周年記念第九演奏会

名以上の合唱団と四名のソリスト及び指揮者とフルオーケストラが必要です。費用が大変掛かるため過去十年間「第九」演奏会を回避してきました。
 今年創立三十周年を機会に、もう一度一宮市民に「第九」の喜びと感動を伝えたくて今年十一月四日(日)に一宮市民会館で「第九」演奏会を開催いたします。



一宮第九をうたう会結団式

しかし財政の心配と、県内有数の人口を抱えながら百五十名の団員を集めるのに大変苦労をしています。市外からの応援を頼まざるをえない現状です。誠に残念なことです。今回の演奏会は、人気の女性指揮者田中祐子さんと名古屋フィルハーモニー交響楽団、一流のソリストを頼みました。是非ベートーヴェンの贈り物「第九」を一度お聴きください。ドイツ語が分からなくてもきっと感動していただけるかと確信しています。是非チケットを購入してご来場ください。お待ちしております。

第73回 一宮市芸術祭

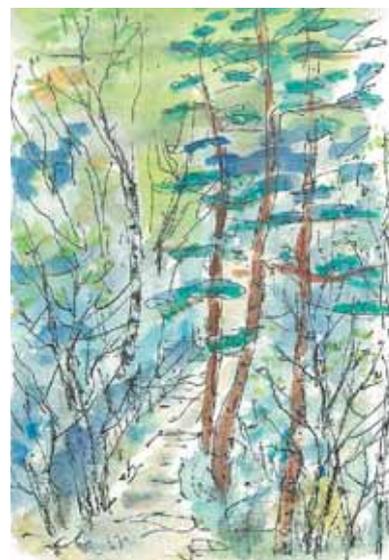
開催期間
2018年9月～12月

今年の「一宮市芸術祭」は次のとおり開催されます。ぜひお出掛けください。

行事	期日	時間	開催場所	入場料 参加料等	団体
楽しく描こう会 水彩画展	8月28日(火) ～9月2日(日)	AM9:00～PM5:00 (28日はPM1:00～、 2日はPM4:00まで)	三岸節子 記念美術館	入場無料	楽しく描こう会
2018 一宮美術作家協会展	9月1日(土) ～16日(日) (3日・10日を除く)	AM9:30～PM5:00 (16日はPM4:30まで)	一宮市博物館	博物館常設展 観覧料200円	一宮美術作家協会
第11回 三美会展	9月4日(火) ～9日(日)	AM9:00～PM5:00 (4日はPM1:00～、 9日はPM4:00まで)	三岸節子 記念美術館	入場無料	グループ絵ごころ三美会
第20回記念 能狂言面等作品展	9月7日(金) ～9日(日)	AM9:00～PM4:30 (7日はPM0:00～、 9日はPM4:00まで)			尾西面打会
第15回記念尾西展	9月12日(水) ～17日(月・祝)	AM9:00～PM5:00 (17日はPM4:00まで)			尾西美術連合
水絵の会展	9月19日(水) ～23日(日)	AM9:00～PM5:00 (19日はPM1:00～、 23日はPM4:00まで)			水絵の会
水彩画 アクアマリン展					アクアマリン
一宮写真協会 選抜写真展	9月20日(木) ～30日(日) (25日を除く)	AM9:30～PM5:00 (30日はPM4:30まで)	一宮市博物館	博物館常設展 観覧料200円	一宮写真協会
第54回麗筆会展	9月21日(金) ～23日(日)	AM10:00～PM5:00 (23日はPM4:00まで)	一宮スポーツ 文化センター		麗筆会
第20回記念 桃墨会展	9月26日(水) ～30日(日)	AM9:00～PM5:00 (30日はPM3:30まで)	三岸節子 記念美術館	入場無料	桃墨会
手つむぎ・染め・織り展	9月26日(水) ～30日(日)	AM10:00～PM5:00 (30日はPM4:00まで)	玉堂記念 木曾川図書館		尾張もめん伝承会
市民茶会	9月30日(日)	AM10:00～PM3:00	真清田神社	2,000円 (前売1,800円)	一宮茶道協会
土筆の会展	10月4日(木) ～7日(日)	AM9:30～PM5:00 (7日はPM4:00まで)	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	土筆の会
山ぶどうの会展					山ぶどうの会
一宮市尾西俳句大会	10月8日(月・祝)	PM1:00～PM5:00	尾西生涯 学習センター	500円	尾西俳句会
花畑スケッチブック展	10月11日(木) ～24日(水) (14日・21日を除く)	AM9:00～PM4:30 (11日はPM0:00～、 24日はAM11:00まで)	ふれあいセンター たくみ		花畑
第14回 あざみの会 絵画展	10月11日(木) ～14日(日)	AM9:30～PM5:00 (11日はPM1:00～、 14日はPM4:00まで)	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	あざみの会
ゆずの会作品展					ゆずの会
狂俳大会	10月13日(土)	PM1:00～PM5:00	葉栗公民館	500円	一宮狂俳壇連盟
尾西ウィンドオーケストラ 第83回定期演奏会	10月14日(日)	PM2:00～PM4:00	尾西市民会館		尾西ウィンドオーケストラ
いちのみや文芸2018 発刊	10月20日(土)	1冊 800円 随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の市民文芸集			
文化講演会		PM1:30～PM3:00 (開場はPM1:00まで)	尾西市民会館	入場無料 (要入場整理券)	講師：木村 大作さん (映画監督／カメラマン)

行事	期日	時間	開催場所	入場料 参加料等	団体
秋季謡曲大会	10月21日(日)	AM9:30~PM4:30	尾西生涯 学習センター	入場無料	一宮謡曲同好会
一宮シティ合奏団 第25回定期演奏会	10月21日(日)	PM2:00~PM4:00	尾西市民会館	500円	一宮シティ合奏団
第34回一面会 能・狂言面作品展	11月1日(木) ~4日(日)	AM10:00~PM6:00 (1日はPM0:00~、 4日はPM4:00まで)	アイブラザー宮		一面会
一宮吟剣詩舞道大会	11月3日(土)	AM9:20~PM4:30	木曾川文化会館	入場無料	一宮吟剣詩舞協会
第73回 一宮市民華道展	11月3日(土) ~4日(日)	AM10:00~PM4:00 (4日はPM3:30まで)			一宮華道連盟
俳句大会	11月3日(土)	AM11:00~PM4:30	一宮スポーツ 文化センター	500円	一宮俳句協会
一宮現代詩祭		PM1:00~PM4:00		入場無料	一宮現代詩協会
一宮第九をうたう会 創立30周年記念 第九演奏会 第20回一宮市民音楽会	11月4日(日)	PM2:00~PM4:00	一宮市民会館 ホール	S席 3,500円 A席 3,000円	一宮第九をうたう会
第46回一宮音楽家協会 定期演奏会			木曾川文化会館	500円	一宮音楽家協会
曾山流樹徳吟詠会 山瑩会錬成会	11月11日(日)	AM9:00~PM4:00	尾西商工会館	入場無料	山瑩会
市民短歌大会		PM1:00~PM4:30	一宮スポーツ 文化センター	500円	真清短歌会
第42回一宮合唱祭	11月18日(日)	PM0:30~PM4:30	尾西市民会館	入場無料	一宮合唱協会
一宮茶道連盟茶会		AM9:00~PM3:00	妙興寺	8,000円	一宮茶道連盟
一宮三曲協会 定期演奏会	11月23日(金祝)	AM11:30~PM4:00	木曾川文化会館		一宮三曲協会
第64回公益社団法人 中部日本書道会一宮支部展	11月24日(土) ~25日(日)	AM10:00~PM4:00 (24日はPM1:00~)	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	公益社団法人 中部日本書道会一宮支部
第47回公益社団法人 中部日本書道会一宮支部 学生書道展					尾西華道展・お茶会 実行委員会
尾西華道展・お茶会		AM10:00~PM4:00 (お茶会はPM3:00まで)	尾西市民会館		尾西芸能祭実行委員会
尾西芸能祭		PM0:00~PM3:00			
一宮市民吹奏楽団 第43回定期演奏会	12月2日(日)	PM1:30~PM3:30	一宮市民会館	当日500円 (前売400円)	一宮市民吹奏楽団
第12回 パレット水彩画展	12月4日(火) ~9日(日)	AM9:00~PM5:00 (4日はPM1:00~、 9日はPM4:00まで)	三岸節子 記念美術館		パレット会
第8回 雅楽フェスティバル	12月8日(土)	PM1:30~PM3:30	一宮市民会館		特定非営利活動法人 旭雅楽会
ガリバンバン 水彩画展	12月11日(火) ~16日(日)	AM9:00~PM5:00 (11日はPM1:00~、 16日はPM4:00まで)	三岸節子 記念美術館	入場無料	尾西ガリバンバンの会
第16回 尾西作家協会展	12月18日(火) ~23日(日)	AM9:00~PM5:00 (18日はPM1:00~、 23日はPM4:00まで)			尾西作家協会
クリスマスコンサート	12月23日(日)	PM1:30~PM4:00	尾西市民会館		安美&コンプリオ

文化情報



「山路」 松岡 彩子

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館

○入館は午後4時30分まで

○月曜休館(休日の場合は開館)、休日の翌日休館(ただし、土曜日・日曜日または休日の場合は開館)

一宮市博物館

☎(46)3215

休館のお知らせ

10月2日(火)～11月30日(金)

企画展「一宮写真協会選抜写真展」

日時 9月20日(木)～9月30日(日)

内容 一宮写真協会会員が、それぞれの感性と技術を磨きつ

つ、熱い思いを込めた写真作品の数々を展示します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円
小中生 50円

企画展「2018一宮市現代作家美術秀選展」

美術秀選展

日時 12月1日(土)～12月16日(日)

内容 第76回一宮市美術展依頼出品者・市長賞受賞者、一宮

美術作家協会・一宮書道協会・一宮写真協会推薦者の作品を展示します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

特集展示「墨コレクション」

近代の洋装

日時 6月5日(火)～9月30日(日)

内容 墨コレクションは、江戸時代から近代までの毛織物約530点からなるコレクションです。この中から軍服などの近代の洋装をご紹介します。

代から近代までの毛織物約530点からなるコレクションです。この中から軍服などの近代の洋装をご紹介します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

特集展示「尾張の洋画 佐分眞」

日時 12月1日(土)～平成31年1月27日(日)

内容 一宮町長を父に持つ洋画家・佐分眞(1898～1993

6)の作品を展示します。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

第54回市民文化財めぐり

日時 10月3日(水)午後1時～午後4時

内容 文化財愛護の心を培うため、今年度は妙興寺・耕雲院所蔵の文化財を文化財保護審議会委員の解説とともに拝観します。

定員 30名

※参加費無料・要申込み。詳しくは広報9月号を参照。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

開館20周年記念特別展

「絵を描く糸 刺繍美術展―江戸時代の着物から現代染織まで―」

日時 10月6日(土)～11月25日(日)

内容 絵画と染織をつなぐ刺繍に注目し、江戸時代の着物から明治時代の刺繍絵画、現代の染織作品までの刺繍美術をご紹介します。絵画と染織の意外な関係性をお楽しみいただけます。

講演会「明治刺繍絵画の世界」

日時 10月20日(土) 午後2時～

講師 村田理如氏(清水三年坂美術館 館長)

参加費 無料

申込み 不要。当日直接会場。

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

休館のお知らせ

平成31年6月7日(金)まで(予定)

※休館中のお問い合わせは月曜日(祝休日を除く)午前9時から午後5時まで

美濃路探訪(秋・美濃編)

日時 10月21日(日)

午前9時〜午後5時

内容 岐阜県に残る美濃路の史跡を見学します。墨俣宿・大垣宿・垂井宿(予定)

定員 30名

※要参加申込み。詳しくは広報9月号参照。

ふるさとを訪ねる

日時 11月18日(日)

午前9時〜午後5時

内容 資料が製作された地域や関連ある地域を訪ねます。羽島市他

定員 30名

※要参加申込み。詳しくは広報10月号参照。

歴史講座「古文書で読む日本の大事件」

日時 12月2日(日)・12月9日(日)

午後1時30分〜午後3時

場所 尾西生涯学習センター

内容 映画やドラマではなく、古文書から歴史の重大事件の内容に迫ります。

定員 30名程度

※要参加申込み。詳しくは広報11月号参照。

月号参照。

一宮市観光協会

☎(28)9131

「第35回木曾川町一豊まつり」

日時 9月16日(日)

午前10時〜午後4時

内容 パレード、ステージイベント、乗馬体験、鮎のつかみ捕りなど

会場 黒田小学校他

入場料 無料

「一宮だいたいフェスタ大集合 for Halloween2018」

日時 10月6日(土)〜10月28日(日)

内容 コスプレパレードなど、市内各所でさまざまなまつりが行われます。

会場 市内各所

「素人チンドン祭り」

日時 10月21日(日)

午前9時〜午後5時

内容 アマチュアが参加するチンドンコンクールやパレード、太鼓や大道芸のショーを行います。

会場 萩原商店街

入場料 無料

「第42回一宮菊花大会」

日時 11月3日(土)祝〜11日(日)

午前9時30分〜午後5時

内容 菊の愛好家が丹精して育てた作品の数々を一堂に展示します。

会場 138タワーパーク

入場料 無料

一宮市消防本部総務課

☎(72)1194

第40回一宮市消防音楽隊定期演奏会

日時 10月28日(日)午後1時30分〜

内容 ゲストに林望さん(作家)、矢野きよ実さん(パソナリテイ)を迎え、演奏会を行います。

会場 一宮市民会館

入場料 無料

市生涯学習課

☎(85)7074

「2018市民大学公開講座」

日時・内容

前期「より良い健康習慣のために」
●10月10日(水)

「健康食品とは?ー健康食品と食品表示制度についてー」

修文大学 准教授 小田雅嗣さん

●10月17日(水)

「乳酸菌の話」

修文大学 教授 寺嶋昌代さん

●10月24日(水)

「お通じスッキリ、健康習慣」

修文大学 准教授 春田佳代さん

●10月31日(水)

「不眠とうつ病予防」

修文大学 教授 荒井春生さん

後期「豊かな暮らしのために」

●11月7日(水)

「中高年の発達課題ー生き生きライフをめざして」

修文大学 教授 足立はるゑさん

●11月14日(水)

「現代の子育て事情」

修文大学 短期大学部

講師 鈴木順子さん

●11月21日(水)

「生活を豊かにするおもちゃー赤ちゃんからお年寄りまでー」

修文大学 短期大学部

講師 奥園知明さん

●11月28日(水)

「麗しのシネモード」

修文大学 短期大学部

教授 櫻井理恵さん

教授 櫻井理恵さん

教授 櫻井理恵さん

※時間は前期・後期とも午前10時
～11時30分

会場 ● 修文大学・修文大学短期大
学部

対象 ● 一般成人

定員 ● 前・後期各100名(先着)

受講料 ● 無料

申込み ● 前期は9月26日(水)まで、
後期は10月24日(水)までに

電話で修文大学・修文大

学短期大学部(☎45-2

101)または生涯学習

課

その他 ● 前・後期とも託児を実施

(各期講座初日に1歳6

ヶ月以上4歳未満、先着

で15人、要予約)



『漢詩創作教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)79533

日時 ▼ 9月4日(火)・10月2日(火)

11月6日(火)・12月4日(火)
午前10時～

会場 ▼ 中央図書館

内容 ▼ 漢詩文の作り方の指導をは

じめ、持ち寄った創作詩の

添削の検討を会員間で行い

ます。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 年3、000円

申込み ▼ 当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時 ▼ 9月8日(土)・10月13日(土)
11月10日(土)・12月8日(土)

午後1時～

会場 ▼ 葉栗公民館

内容 ▼ 各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時 ▼ 9月9日(日)・10月14日(日)
12月9日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料
申込み ▼ 当日直接会場

『瀟聲會定例会』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)79533

日時 ▼ 9月22日(土)・10月27日(土)
11月24日(土) 午前10時～

会場 ▼ 中央図書館

内容 ▼ 漢詩文の基本的な読み方を

はじめ、作者の時代背景に

も触れながら初めての方

にも分かりやすく「唐詩三百

首」を解説します。(初心者

歓迎)

講師 ▼ 三島徹氏(東洋文化振興会

会長)

参加料 ▼ 月2、000円

申込み ▼ 当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 ▼ 9月23日(日)・10月28日(日)
11月25日(日)・12月16日(日)

午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料
申込み ▼ 当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(44)7598

日時 ▼ 9月23日(日)・10月28日(日)
11月25日(日)・12月16日(日)

午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『秋の市民俳句吟行会』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 ▼ 10月19日(金) 午前9時～

行先 ▼ 太田宿中山道会館(美濃加

茂市)

定員 ▼ 35人(定員を超えた場合は

抽選)

対象 ▼ どなたでも

参加料 ▼ 500円(昼食は持参、ま

たは道の駅で購入も可)

申込み ▼ 9月18日(火)までに事務局

へ連絡 ☎(85)7075

※当日、句会も行います。

**『馬場獅子屋形打囃子保存会
秋祭』**

【問合せ先】一宮民俗芸能連盟

☎(85)7075

日時▼10月21日(日) 午後1時～

会場▼熱田社(千秋町加納馬場)他

内容▼道行打囃子を演奏しながら

獅子屋形を曳き回します。

『重吉甘酒祭保存会 甘酒祭』

【問合せ先】一宮民俗芸能連盟

☎(85)7075

日時▼10月28日(日) 午後2時～

会場▼八幡神社(丹陽町重吉)

内容▼神前に甘酒と強飯を供え、

お神楽を奉納します。甘酒

と強飯は参拝者に振るまわ

れます。

『県文化協会連合会の催し』

【愛知県民茶会】

期日▼10月14日(日)

午前10時～午後3時

会場▼豊川閣妙厳寺(豊川稲荷)

茶券▼前売券800円(2席)

当日券500円(1席)

※生涯学習課で前売りしています。

**『加入団体の催し』欄に情報を
掲載しませんか？**

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。
掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、
下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場
⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
または FAX 0586-73-9213

第76回

一宮市美術展

開催要項

【会期】11月15日(木)～18日(日)

午前9時30分～午後5時(金曜

日は7時・最終日は4時30分)

【会場】一宮スポーツ文化センター

(一宮市真清田1-2-30)

【募集種目】日本画/洋画/彫刻・

立体/工芸/デザイン/書/写真

【主催】一宮市・一宮市教育委員会

【作品搬入】11月10日(土)・11日(日)

午前9時30分～午後5時

【出品規定】1種目につき1人1点

とし、他の公募展・コンクール

に未発表の作品に限る。中学校

卒業以上の年齢の者で、市内市

外は問わない。

【出品料】無料

【規格】

【日本画】20号以上100号以内で

額入り。ヒートン及び吊ひも(又は

針金)を取り付けておくこと。

【洋画】20号以上150号以内で額

入り。版画は4号以上で額入り。

ヒートン及び吊ひも(又は針金)

を取り付けておくこと。(CG作

品は不可)

彫刻・立体▼制限なし。(安定して
展示できる作品)

工芸▼制限なし。壁面展示の作品
にはヒートン及び吊ひも(又は
針金)を取り付けておくこと。

デザイン▼A2サイズ以上B1サ
イズ以下でパネル張り。小型はパ
ネルに構成。ポスターフレーム可
(ポスター・イラスト・CG等表現
自由)ヒートン及び吊ひも(又は針
金)を取り付けておくこと。

書▼仕上がり寸法は91cm×91cm
(3尺×3尺)又は半切以上1
76cm×48cm以下。縦横自由。

枠張り又は額装。篆刻は二印以内
で印影のみとし、縦39cm×横30cm
とする。刻字は1㎡以内とする。

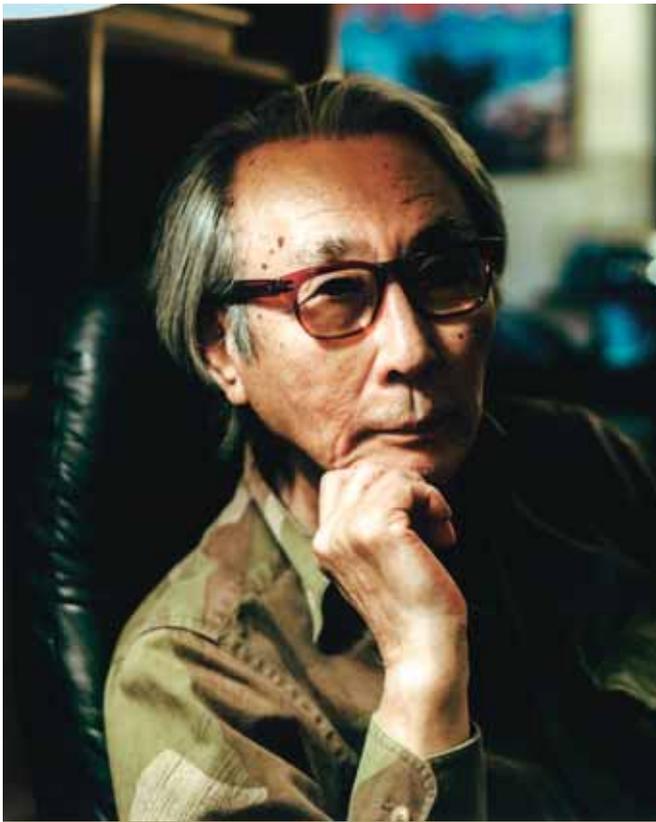
規定の用紙に墨書(パソコン可)に
よる釈文を添付すること。

写真▼全紙(長辺50cm以上)以上で
パネル張り。(木製パネルに限
る)額不可。ただし、組写真は半
切以上2枚以内。(作品裏面で固
定すること)

【作品搬出】11月18日(日)午後5時～
7時(※予備日11月20日(火)午前
9時30分～11時30分)

【問い合わせ先】一宮市教育委員会
生涯学習課 文化グループ

☎(05866)85-7075



講師
木村大作さん
(映画監督／カメラマン)

誰かが行かねば道はでえない

平成30年度
文化講演会

入場無料

※整理券が必要です
※当日は手話通訳があります

◆プロフィール

1939年生まれ。東京都出身。日本映画界を代表するカメラマン。代表作には「八甲田山」、「復活の日」、「駅 STATION」、「火宅の人」、「鉄道員」などがある。2009年、立山連峰の厳しい自然環境のもと長期撮影を行った初監督作品「劔岳 一点の記」は、日本アカデミー賞最優秀監督賞、最優秀撮影賞を受賞し、観客動員240万人を超える大ヒットを記録した。今秋9月より、監督として3作目「散り椿」が公開。講演では自身の映画人生を元に、携わった映画のメイキング秘話などを交えながら、心のこもった“本気の講演”をお届けする。

会場アクセス

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

一宮市循環バス（i-バス）尾西北コース17番、尾西南コース30番「尾西庁舎」下車徒歩1分、もしくは、名鉄バス「尾西庁舎」下車徒歩1分（名鉄一宮駅バスターミナル2番のりばで「起」「西中野」「蓮池」行きに乗り約10分）

整理券

※入場無料ですが、**整理券**が必要です。（満席の場合は、入場をお断りすることがあります）

整理券は9月19日（水）より本庁舎4階生涯学習課、尾西生涯学習センター（尾西庁舎）、尾西南部生涯学習センター、木曾川事務所総務窓口課（木曾川庁舎）、各出張所、中央・玉堂記念木曾川図書館、一宮・尾西市民会館、一宮スポーツ文化センターで配布します。

10月20日 土

13:30～15:00（開場は30分前）

一宮市尾西市民会館
（一宮市東五城字大平裏43-1）

お問い合わせ先

一宮市芸術文化協会事務局（市生涯学習課内）
☎0586-85-7075（直通）

※当日、ロビーにて「**いちのみや文芸2018**」（1冊800円）を販売します。

主催／一宮市教育委員会・一宮市芸術文化協会

[題 字] 武 山 翠 屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213